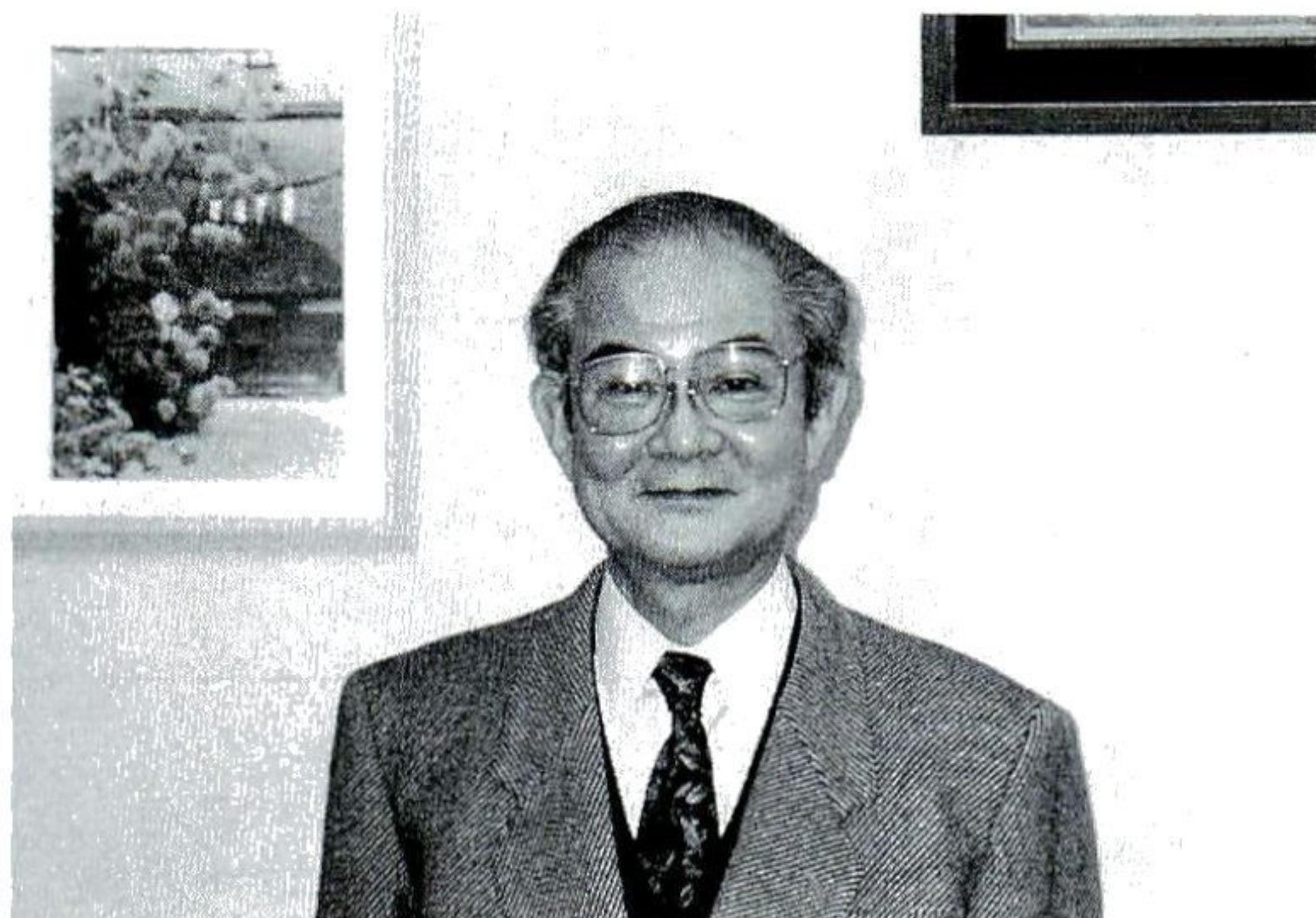


SPECIAL EDITION

学生相談室



高久 明 教授

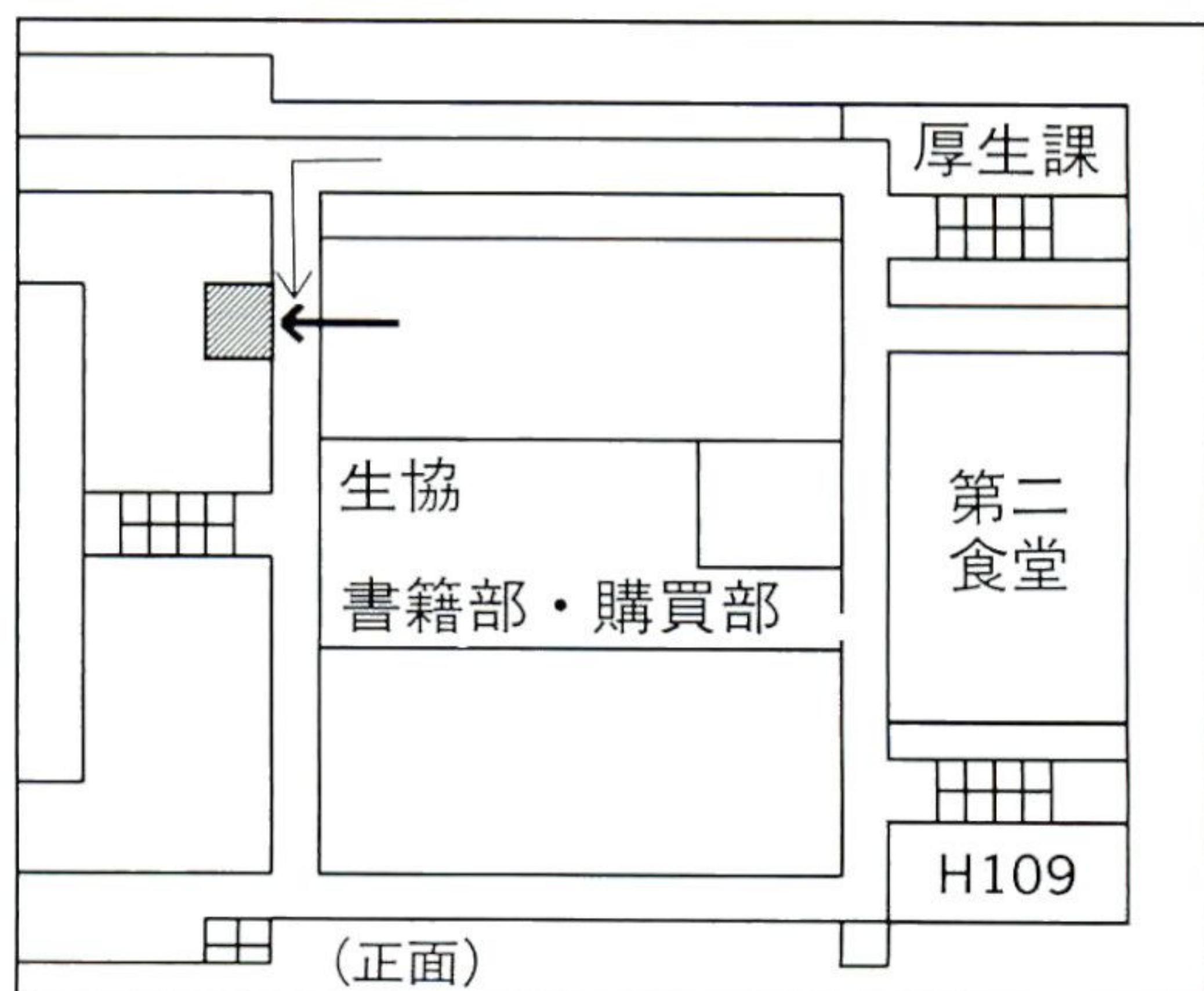
「なんとなく元気がでないな」と感じたことはだれもあると思う。身体の調子がよくないのであれば、ゆっくりと休んで疲れを取ればよい。だが、悩みごとがあって心の調子がよくないときはどうすればいいのであろうか。友人や両親に相談するというのもよい。だが他にも、そんなときに私達を手助けしてくれる所のひとつに学生相談室がある。しかし、その存在を知っている学生はそれほど多くないかもしれない。そこで、より多くの人に学生相談室を知らうために、学生相談室長である高久教授にお話を伺った。

学生相談室では、その名の通り学生から相談に応じるという仕事をしている。つまりここでは、学生の様々な悩みなどに経験豊かな相談員がそれぞれに応じたアドバイスをしているのである。相談員は様々な学科の教授、助教授の先生方が曜日や時間ごとに交替で担当されている。しかしそれだけでなく、相談の内容に応じて、相談員の先生方だけでなく、その相談に最も適切な先生を紹介するということもしている。例えば転類・転学科などのように、自分の所属している学科の先生に相談しにくい内容のものであるならば、学科外の先生が相談に応じることもできる。また、重大な悩みにぶつかったときや、心の重い病気にかかってしまったときには、専門のカウンセラーである保健管理センターの先生が相談員として担当することもあるそうである。

当然のことながら相談内容は厳守される。また誰にも話を聞かれたくないならば、個室で相談をすることができるし、逆に戸外の広々とした所で相談したければそれもできる。そして、必要なら何回でも相談することもできる。

学生相談室を利用するためには、直接学生相談

室に行くか、もしくは電話（内線2060、学外からは03-5734-2060）をかけて相談の日時を予約する。大岡山の学生相談室は本館地階44号室にあり、他の所からはわかりにくいところにある。これは、相談に行くことを他人に知られたくない人への配慮である。しかし、学生相談室にたどり着くことができなければ、その存在の意味がないので、各所に案内板が設置されている。ここに地図を載せるので参照してほしい。



学生相談室地図（矢印が場所）

また、学生相談室は長津田地区にも開設されている。長津田の学生相談室は、G 3 棟301号室にある保健管理センター分室（内線5107、学外からは045-924-5107）を窓口として学生の相談に応じている。現在のところ学生相談室としての独立した部屋は持っていないが、現在部屋を準備しているということである。また、長津田地区での相談の予約は大岡山の学生相談室でもできる。

学生相談室には、年間約300件の相談が持ち込まれている。そのうち最も多いのが転類、転学科など進路関係の相談である。最近では健康に関する相談も増えてきている。なかでも精神的な原因から身体の不調を訴えるケースが多いようである。また、このところ社会問題になっている、カード破産やキャッシングなどについての相談も持ち込まれている。このような対応方法がわかりにくいものについては、厚生課の職員が関係する法律的な制度や対策を調べてくれることもある。

しかし、そのような難しい相談だけを扱っているわけではない。聞きたいことがあるが、どこに質問すればいいかわからないといった、些細な相談にも応じており、気軽な気持ちで相談室を訪れるができるのである。例えば、どの科目を取れば自分の学びたい分野の勉強ができるのかという相談にも応じている。また、学業に関する相談で、教務課に聞きたいことがあるが聞きに行くのはちょっと気後れするという人のために、教務課との間にたち連絡を取ったり紹介したりすることもある。さらに、それでも気後れする人には教務



相談室室内

課まで付き添ったこともあるそうである。ほかにも、ちょっとしたくつろぎの場として訪れる人のために話し相手をしたりといふこともしている。このように様々な相談に応じているので学生相談室というよりよろず相談所という名前の方があたっていると高久教授が話されたのもうなづける。

実際に相談に訪れる学生はどのようなタイプが多いのだろうか。先生に伺うと、相談申込み時に相談したいことを書いてもらう相談申込カードに「社交性がない」と記入する学生が多いということから、対人関係に不安を持っている学生が多いように思える。また実際に学生を見て、どのように感じるかを伺ったところ高久教授は次のように話された。

「東工大に入ってくる学生は科学技術を学ぶというしっかりした目的を持っている学生が多いようです。しかし、あまりにその目的が強すぎるた

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		随時
午前	時間によらず	森(勉)教授★	松田助教授	高橋(栄)助教授	小國助教授	石井教授	小國助教授	高橋(栄)助教授	柴田助教授	井上(義)教授★	香川助教授
午後	井上(義)教授	関根助教授★	柴田助教授	小國助教授	渡辺助教授	高橋(亮)教授	中村教授	高橋(亮)教授	柴田助教授	竹中助教授★	上野助教授★

相談員担当表（平成6年3月現在★は長津田）

あなたは学生相談室の前の壁を見たことがあるだろうか。そこには、家庭教師の求人票が貼られている。家庭教師先の紹介をしているのは厚生課であるが、事務的な手続きは厚生課でなく学生相談室において行われているのである。

家庭教師先の紹介は入学してしばらくたった1年後期以降の学生が対象となっている。紹介を受けるためには、学生相談室に行き登録用紙に名前と学籍番号を記入する。そして

めに、他のことが見えなくなつて閉鎖的になってしまふように思えます。しかし、それだけでなく世の中の動きを見る視野の広さを持つ必要があると思います。そのためにも、人文科学や社会科学の科目もしっかり学んでほしいと思います。東工大では1年から4年までこれらの科目を履修できるので、積極的に利用してみるといいでしょう。また、一人で考えていると暗く落ち込みがちになるので、友人でも誰でもいいから相談をしてほしいと思います」

次に、相談室から学生に対して伝えたいことを尋ねると、以下のように話された。

「どうしていいかわからないときや悩みがあるときに、こんなことを相談していいのだろうかとためらわざ気軽に相談室に来てほしいと思います。相談員の先生は、人生経験を積み重ねてきているので、問題解決に際して実践的なアドバイスが聞けるでしょう。しかし、ここで大切なことは相談員は問題解決の方法を与えるためではなく、問題解決のアドバイスを与えるためにいるということです。問題を解決するのは自分自身であるということを心にとどめておいてほしいと思います」

さらに、学生に望むことを尋ねると、先生は次

学生相談室はあまり存在が知られていない。しかしここは普段から関心を持つ所ではなく、困ったときに初めて必要な場所であるから、知名度の低さは、ある程度仕方のないことなのかもしれない。なにより学生相談室を利用しないで済むにこしたことはないし、逆に誰もが相談室を必要とする状態の方が問題だからである。しかし、悩みが

相談室前の壁にある求人票を見て、自分の条件とあったものに応募をするのである。1つの求人に応募が複数あったときは、登録したときにもう登録番号が早い人に決まる。したがって、番号が早いほど有利だが、それよりも自分の条件にあったものを見つけるためには、こまめに求人票を見に行くことが重要である。時給などの細かい質問は、相談室にいる担当の人が親切に答えてくれるので、気になる人は尋ねるとよいであろう。

のようにも話しておられた。

「もっと自分の周りの仲間に关心を持ってほしい気がします。というのは相談を受けていると、まず友人に相談しさえすれば解決できるかもしれないのに、というような相談を寄せる学生が多く見受けられるからです。だから、もし自分の周りに悩んでいたり、困っていたりしている友人を見つけたら、相談に乗ってあげてほしいと思います。また、悩みを持ちながらこの存在を知らない人がいるならば、その人に学生相談室のことを教えてあげてください」

⑥ 相談申込カード		※() 年度	Na
		平成 年 月 日	
学籍	学部 学科(類)	年 氏名	ふりがな
			男
年度入学 学籍番号()		年 月 日 生 ()	
現住所 (通学先)	方 電話 ()	住居 (○で囲む)	自宅、親戚、学生寮、アパート 下宿、(路の有無) その他()
家庭所在地 (最寄駅のみ) (○で数字を囲む)	学生相談室 利用の有無 (○で囲む)	あ る い な い	希望する面接日時 月 日 曜 時 分から (予約申込者のみ記入)
※決定した面接日時	月 日 曜 時 分から	相談員	
相談したい ことがら (○で数字を囲む)	(1) 学業履修 (2) 転部、転科 (3) 講外活動 (4) 人生問題 (5) 対人関係 (6) 异性関係 (7) 性格 (8) 家庭 (9) 将来の方針 (10) 就職 (11) 生活 (アルバイト奨学金) (12) 住居 (13) 健康 (14) その他 ()		
相談の要点 (具体的に書 いて下さい)			
備考			

(注意) 1. 本人以外の相談申込みの場合は必ず備考欄に氏名、住所および本人との関係を記入して下さい。
2. ※の欄は記入しないで下さい。

東京工業大学 学生相談室

相談カード

あるのにその存在を知らない人があつてもいけない。その意味でも今回の記事で学生相談室の存在を初めて知ってくれた人がいるなら幸いである。

最後になりましたが、忙しい中快く取材に応じていただいた高久教授をはじめ、学生相談室の皆さんに深く感謝いたします。

(柳田 真里)